



若く日に  
汝の思想を培え  
若く日に  
汝の体躯を養え  
若く日に  
汝の智慧を磨け  
若く日に  
汝の希望を重んじ  
松岡 中 氏

第6号  
(発行)  
平成23年12月15日(木)  
東海大学付属翔洋高等学校同窓会

### 同窓会活動にご協力を!!

東海大学付属翔洋高等学校

同窓会会長 林 芳久仁



我が翔洋高校同窓会は、皆さんご存知のように、平成十一年三月、旧第一高校と旧工業高校が統合し、総合教育を取り入れた「翔洋高校」として新たな校名でスタートしました。それに伴い、両校の同窓会も、統合に向けて十分話し合い、互いに理解を深め、新しい役員体制でスタートしました。

学園発展に寄与できる同窓会にすべく、県内及び全国で活躍されている同窓生の皆さんに、学校の現状及び同窓会の活動等を紹介する為「ホームページ」と「同窓会会報(翔)」を発行し、これまで多くの同窓生の皆様に見て頂き、活動の一層のご理解とご協力をお願いしてまいりました。

統合後十年が経過する中、私学高校を取り巻く状況は、少子化の影響及び公立志向の強さにより、生徒の確保が大変厳しいものがあります。

また、私学高校同士の競争も加わり、毎年定員不足を余儀なくされています。

同窓会としても、卒業生のお子さんや各中学校へ働きかけ、建学の精神、本校の有利性等を説明し、一人でも多くの新入生が確保できるように努めております。

その為にも、年間活動を多く取り入れ、学校行事にも積極的に参加し、翔洋高校へのご理解を深めて頂けるよう努力しております。

同窓会の年間行事を紹介いたしますと、

- ・毎月一回、定例役員会開催 (学校の会議室にて)
- ・清水最大のお祭り「港まつり」に参加
- ・「東海みこし」を出して練り歩き、祭りに花を添えています。
- ・大学学園校友会(園遊会)に毎年参加し、バザーと売店を出店
- ・十月に開催される学園祭(建築祭)に参加
- ・玄関前に東海みこしを展示
- ・教室をお借りしての、パネル写真展及び同窓会活動紹介、同窓会名簿展示等
- ・来室されたご父兄、生徒さん、同窓会員の皆様との意見交換会
- ・十月に行われる学校行事66.6キロ走行に参加する生徒に、おしるこのサービスと激励、学校のゴールでは、飲料水のサービス
- ・三月には、卒業式を控えた三年生全員に向けて、同窓会入会式を実施
- ・卒業後の同窓会活動の紹介、参加のお願い、同窓会からの記念品贈呈、各クラブ活動で活躍された優秀生徒の表彰
- ・今年度は、毎年持ち回りで実施している、「全国東海大学付属高等学校連合同窓会」の当番校になり、九月十七日・十八日の二日間、下田市のホテルで総会を開催し、全国から七十名余の各同窓会関係者が集合し、楽しく交流ができました。

総会後は、県内観光めぐりを行い、我々役員十数名で受け入れを行い、無事終了しました。

(来年度は、熊本県第二高等学校の担当開催になります。)

このように、多くの活動を続ける中、内外に翔洋高校の教育理念をアピールし、しっかりと学校を支える体制づくりをする為には、多くの同窓生の皆様のご理解とご協力が不可欠であり、その上に成し遂げられる同窓会活動であります。今後とも、宜しくお願ひ申し上げます。

また、若い同窓生の皆さんにも、積極的に参加して頂き、同窓会を盛り上げて頂きますよう、重ねてお願ひ申し上げます。

結びに、同窓会では、翔洋高校と同窓会活動の状況に、皆様にお伝えしていく為に、これまでは二年に一度だった「同窓会会報(翔)」を、毎年発行していくよう計画しております。

その為にも、一口千円以上の維持費のご協力をお願いする次第です。重ね重ねお願ひ事で恐縮ですが、ご理解を賜りますよう宜しくお願い申し上げます。

### 「ごどもは、みんな宝石だ」 一貫教育システムが折戸の地に完成。

校長 高橋 信由



東日本大震災で亡くなられた方々に心より哀悼の誠を捧げます。

東日本の皆様は本年三月十一日に発生した「東日本大震災による大津波と、福島原発の事故による放射能汚染」により、戦後最大の被害を被りました。しかし、東日本の皆様は強い忍耐力と、我慢力での戦後最大の危機を乗り越えようとしています。いま、すべての日本人は復興というゴールの見えない目標への、スタートラインに着いたばかりです。

さて、同窓会報「翔」第六号の発行おめでとございます。一九九九年四月に第一高校と工業高校が統合して、「東海大学付属翔洋高等学校」ができてから今年で十三年目を迎えることになりました。一口に十三年と言っても、この十三年はいろいろなことがありました。学校に

とつて喜ばしいことも、辛く苦しいこともありました。第一高校・工業高校そして、翔洋高校の卒業生やその父母の皆様方に支えられて、十三年目を迎えることができたことに心から感謝を申し上げます。

「ごどもは、みんな宝石だ、人間は一生涯自分自身(宝石)を磨いていくのだ。」と、大学時代の教育原理の先生が、語っていたことを忘れることができません。高校時代にはあまりぼつとしなかつた人が、社会に出てから、いろいろ経験をするうちに、今まで磨かれていない部分を発見する例は無数にあります。

「だれでも、何かの天才である」という言葉があります。音楽やスポーツの天才だけが天才ではありません。人と話す天才、友だちをつくる天才、人を和やかにする天才、看護の天才、ジョークの天才、ものを売る天才、節約の天才、時間を守る天才、忍耐の天才、地道の天才、優しさの天才、チャレンジの天才、樂觀主義の天才、平和の天才、人を幸福にする天才……。

「桜梅桃李」(おうばいとりの)です。桜は桜、梅は梅です。要は自分らしく咲けばよいのです。自分の宝石として輝いている部分、自分の天分が必ずあります。それを探し出すためには、どうすればいいか。限界まで努力するしかありません。勉強でもスポーツでも何でも、限界まで全力疾走して初めて、自分の力が引き出されます。一番大切なことは、そうやって「限界まで努力する」習慣を身につけることなのです。

家庭の事情や、自分の意志で、高校を卒業して就職をする人もいるだろうし、大学を出てから就職をする人もいます。家の手伝いをする人もいれば、立身出世の道を目指したり、技術の習得をしようとする人もいます。それは、人それぞれさまざまであるし、一切自由なのです。しかし、ありとあらゆる世界で、ありとあらゆる分野で、自分を輝かせてほしいのです。これが本当に「生きる」と言うことなのです。

結びに、二〇二二年の四月に、付属小学校と付属幼稚園が三保の地から、折戸のキャンパスに移転してきます。そして、折戸の地に「幼・小・中・高・大学(院)」までの、総合一貫教育システムができあがります。「東海大学の創設者・松前重義先生が念願」とした、このシステムが成功するよう、皆様方のご支援とご協力をお願い申し上げます。

部活動報告

●陸上競技部

- 静岡県高校総体 5月27日から29日  
エコパスタジアムにて
- 男子100m 2位 近松 亮(3年)
  - 10秒96
  - 女子100m 高山真里奈(2年)
  - 12秒35 優勝
  - 男子200m 近松 亮(3年)
  - 21秒91 3位
  - 男子4×400mR 3分17秒23 5位
  - 松原 奨(3年)／白川龍之介(1年)
  - 望月龍之介(3年)／近松 亮(3年)
  - 佐野毅典(3年)／近藤祐市(3年)
  - 黒田直哉(2年)
  - 男子走高跳 池田悠斗(2年)
  - 1m90 5位
  - 男子走幅跳 松原 奨(3年)
  - 7m61 優勝
  - 男子走幅跳 土屋裕輝(1年)
  - 7m03 3位
  - 女子やり投げ 脇真里奈(3年)
  - 39m45 5位
  - 女子七種競技 豊田 梓(2年)
  - 4266点 優勝
- ※6位までは東海高校総体へ  
東海高校総体 6月17日から19日  
エコパスタジアムにて
- 男子100m 近松 亮
  - 10秒90 7位
  - 男子200m 近松 亮
  - 22秒27 7位
  - 男子4×400mR 3分17秒00 予選敗退
  - 男子走高跳 池田悠斗
  - 記録なし
  - 男子走幅跳 松原 奨
  - 7m37 優勝
  - 男子走幅跳 土屋裕輝
  - 6m74 10位
  - 女子100m 高山真里奈
  - 12秒33 準決勝敗退

●柔道部

- 全国高校総体 8月3日から7日  
北上総合運動場
- 女子やり投げ 脇真里奈
  - 37m99 予選落ち
  - 女子七種競技 豊田 梓
  - 4287点 2位
  - 男子走幅跳 松原 奨
  - 2位
  - 女子七種競技 豊田 梓
  - 18位
- 静岡県高校総体 6月21日・28日  
静岡県立武道館にて
- 柔道団体女子優勝
  - ※全国高校総体・東海高校総体へ
  - 岩崎光希(3年)／堀川郁美(2年)
  - 山下亜矢(3年)／伊藤 愛(2年)
  - 柔道団体男子 3位
  - ※東海高校総体へ
  - 田中健登(3年)／立川功大(3年)
  - 望月隆光(3年)／鈴木 淳(3年)
  - 遠田扶巳也(2年)／鈴木和也(1年)
  - 男子81kg級 田中健登(3年)優勝
  - ※全国高校総体・東海高校総体へ
  - 男子73kg級 立川功大(3年)2位
  - ※東海高校総体へ
  - 男子66kg級 百瀬将悟(3年)2位
  - ※東海高校総体へ
  - 男子60kg級 稲益大悟(3年)2位
  - ※東海高校総体へ
  - 女子78kg級 山下亜矢(3年)2位
  - ※東海高校総体へ
  - 女子70kg級 堀川郁美(3年)2位
  - ※東海高校総体へ
  - 女子78kg超級 岩崎光希(3年)3位
  - ※東海高校総体へ
- 東海高校総体 6月18日・19日  
浜北総合体育館
- 女子団体 1位 優勝
  - 男子66kg級 百瀬将悟 2位
  - 男子81kg級 田中健登 2位
  - 女子78kg級 山下亜矢 2位
- 全国高校総体 8月11日・12日  
秋田県立武道館
- 男子個人81kg級 田中健登
  - 3回戦敗退

●自転車競技部

- 静岡県高校総体 5月22日  
日本サイクルスポーツセンターにて
- 男子ロードレース 高橋大和(2年)
  - 6位※東海高校総体へ
  - 東海高校総体 6月17日から19日  
日本サイクルスポーツセンター
  - 個人ロード 高橋大和 16位
- フェンシング部  
静岡県高校総体 5月21日・22日  
沼津市民体育館にて
- 男子個人エペ 柴 敦之(3年)
  - 優勝※全国高校総体・東海高校総体へ
  - 男子個人フルール 南原一仁(3年)
  - 3位※東海高校総体へ
  - 男子個人サーブル 長谷川舜(3年)
  - 3位
  - 男子団体3位
- 長谷川舜(3年)／柴 敦之(3年)  
南原一仁(3年)／瀧澤優太郎(3年)  
中村亮介(3年)
- 東海高校総体 6月18日・19日  
沼津市民体育館
- 個人エペ 柴 敦之
  - 決勝トーナメント1回戦敗退
  - 個人フルール 南原一仁
  - 予選敗退



●空手道部

- 全国高校総体 7月30日から8月1日  
むつ市ウェルネスパークしもきた克雪下ーム
- 男子個人エペ 柴 敦之
  - ベスト32
- 静岡県高校総体 5月15日  
5月21日・22日  
静岡県立武道館にて
- 女子個人形 山下真由美(3年)優勝
  - ※全国高校総体・東海高校総体へ
  - 東海高校総体 6月18日・19日  
静岡県武道館
  - 女子個人形 山下真由美 優勝
  - 全国高校総体 7月30日から8月2日  
青森県十和田総合体育センター
  - 女子個人形 山下真由美 初戦敗退



●アーチェリー競技

- 静岡県高校総体 5月29日  
掛川市つま恋グリーンスポーツ広場にて
- 女子個人形 杉林りな(3年)優勝
  - ※全国高校総体・東海高校総体へ
  - 東海高校総体 6月18日・19日  
つま恋グリーンスポーツ広場
  - 女子個人 杉林りな 8位
  - 全国高校総体 8月9日・10日  
八戸市東運動公園陸上競技場
  - 女子個人 杉林りな 第5位
- 剣道部  
静岡県高校総体 6月4日・5日  
静岡県立武道館にて
- 男子団体3位※東海高校総体へ



●ラグビー部

- 静岡県高校総体 5月21日(土)  
袋井高校グラウンドにて
- 2回戦本校0対2袋井
  - 2回戦敗退ベスト32
- 男子サッカー部  
静岡県高校総体 5月21日(土)  
袋井高校グラウンドにて
- 1回戦5月22日翔洋グラウンドにて
  - 本校59対0焼津水産
  - 準決勝5月29日草薙競技場にて
  - 本校5対10静岡
  - 3位決定戦6月5日 裾野陸上競技場にて
  - 本校7対42浜松工業

●女子サッカー部  
静岡県高校総体

予選リーグ  
4月29日 草薙球技場にて  
本校6対2沼津西  
本校2対2吉原  
5月1日 榛原高校にて  
本校1対4磐田北  
5月8日 藤枝順心高校にて  
本校3対0聖隷クリストファー  
予選順位決定  
5月15日 磐田東高校にて  
本校0対0(PK3-2)吉田  
決勝トーナメント  
5月22日 藤枝順心高校にて  
本校0対5磐田東



●女子バスケットボール部  
静岡県高校総体

富士東高校体育館にて  
1回戦・本校41対78市立沼津

●卓球部

静岡県中央体育館にて  
男子団体2回戦敗退  
繁田征吾(3年)／池田真也(3年)  
夏蒨凌大(3年)／梅原功太郎(2年)

●チアリーダー部

全国高等学校ダンスドリル選手権大会  
出場  
(ソングリーダーの部・フラッグトワ  
ラーの部)  
7月27・28日 東京体育館  
第37回マーチングバンド・パトント  
ワールディング東海大会  
金賞※全国大会出場決定  
10月29・30日 日本ガイシホール



部活動紹介

●アーチェリー競技

2011 おいでませ!! 山口国体

国体出場 アーチェリー(優勝)

杉林 りな

10月7日から10月9日に山口県の周防大島町で国民体育大会アーチェリー競技が開催されました。1日目の7日に2位と8点差で優勝しました。夏休み前から国体に向けての合宿が毎週のようにありました。夏休みも土日も休みがなく、正直言えば疲れっぱなしで

す。しかし私はユースの最終選考やインターハイで悔しい思いをして、国体では個人優勝すると強く思っていました。また静岡少年女子はフルメンバーではなく、私以外の2人は高校2年生でした。その中で私はチームをリードし団体優勝も夢見ていました。しかし団体3人の個人点数を合計したところ、あと8点というところで予選も通過することができませんでした。個人優勝をし嬉しい反面、とても辛かったです。国体では初めての全国優勝ができて幸せでした。また応援してくれた家族や友達、沢山の人が感謝しています。大学でもアーチェリーを続けていく上で大きな自信となりました。



2011 熱戦再来 北東北総体アーチェリー競技 H23.8.8~11 於 八戸市東運動公園

●吹奏楽部  
東北慰問旅行雑感

音楽監督 塚本 伸一

まずは先日開催しました「第十三回定期演奏会」開催に対して、同窓会の皆さまからの熱いご声援を含む叱咤激励を賜りましたこと、この場をお借りして厚くお礼申し上げます。

一高出身の若手講師である宝井駿之介さんによる司会進行で、翔洋ブラスの定番中の定番《と演歌えきすふれす》を、新しくもぬくもりのある語り口で切り開いてくださいました。創部五十一年目の幕開けに相応しい内容だったと思います。また、一高出身のマリンパ奏者である山本昂子さんの目にも留まらぬ超絶技巧による演奏や、翔洋高出身のバストロンボン奏者である星野舞子さんの、温かくもあり力強さのある音色に、会場を埋めた多くのお客様はききとご満足いただけただことだと思えます。このような優秀な先輩たちを輩出することが出来るのも、東海らしさと確信しました。



吹奏楽部は去る八月二十三日から二十五日まで、東日本大震災の被災地である東北地方に慰問演奏に行きました。団長は高橋信由校長、事務部からは逆井洋人さんがワゴン車を運転し、緊急車両班として同行、部員は、鈴木賢司さんが運転するスクールバスで、被災地を巡りました。二十三日朝六時三〇分翔洋高校発、東名高速・首都高速・東北道を経由し、山形道から東海大学山形高校へ到着しました。山形高校吹



奏楽部は、一週間後に大会を控えていたにも関わらず、翔洋ブラストと合同練習会を開いてくださいました。《陽はまた昇る》という震災を契機にイギリスの作曲家スパークが作った吹奏楽曲を初見で演奏。音楽で世界中が結ばれていることを実感した瞬間でもありました。

宿泊は山形高校をお借りしました。山形高校の阿部副校長先生は朝早くから夜遅くまで、翔洋高校のためにお付き合いです。同じ東海学園の仲間であることを再認識できました。

二十四日は早朝四時三〇分起床。二百キロ離れた気仙沼の小学校に向かうため。気仙沼市内の惨劇は、部員の心に響きつと響いたはず。小学校での演奏は、



明るく楽しく出来ましたが、無邪気に笑ってくれた小学生が背負う震災の爪痕は、計り知ることの出来ないものであると実感しました。午後には、世界文化遺産に登録された平泉の中尊寺金色堂にて、被災地への鎮魂と翔洋高校の発展を祈願しました。

鉄筋で出来た高校も、津波の力には太刀打ち出来ず、無残な光景が広がっていました。震災から四ヶ月以上経っていたので、がれきなどはある程度は片付けられていましたが、街の至る所に傷跡が見受けられました。距離がたった十メートル違っただけで津波の被害の明暗が分かれていた街、田んぼの真ん中に漁船がある風景、高台にあることで大きな被害を免れた街など、同じ街でも受けた傷が異なっていました。



そこに暮らす人々の思いは、我々が想像する以上に複雑でありそして時間がかかるものであると認識しました。

最終日は朝六時三〇分山形高校発で、仙台空港の南方にある宮城県亶理(わたり)町の中学校を訪問しました。同じ町にあるもう一つの中学校が津波被害によって全壊してしまっただけに、間借りする形で学校を再開していました。

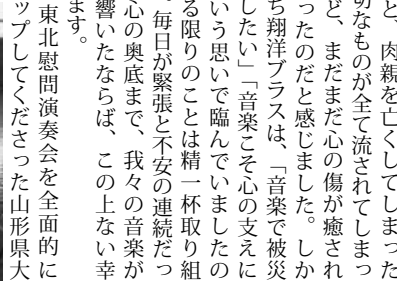
演奏を聴く態度は非常に礼儀正しく、

前日の小学校とは異なっており、一つしもない状況でした。「東北人はシャイですから」と訪問先の校長先生はおっしゃっていました。中学生にもなると震災当日の復興に向けて全員が頑張っていること、肉親を亡くしてしまったこと、大切なものが全て流されてしまったことなど、まだまだ心の傷が癒されていないと感じました。しかし、私たち翔洋プラスは、「音楽で被災者を励ませたい」「音楽こそ心の支えになる」という思いで臨んでいましたので、出来る限りのことは精一杯取り組みました。毎日が緊張と不安の連続だった彼らの心の奥底まで、我々の音楽が少しでも響いたならば、この上ない幸せであります。

今回の東北慰問演奏会を全面的にバックアップしてくださった山形県大江町町長の渡邊先生から、激励をいただきました。以前に東海大山形で教員をなさっていたというところで、高橋校長が演奏先の手配等をお願い

前日の小学校とは異なっており、一つしもない状況でした。「東北人はシャイですから」と訪問先の校長先生はおっしゃっていました。中学生にもなると震災当日の復興に向けて全員が頑張っていること、肉親を亡くしてしまったこと、大切なものが全て流されてしまったことなど、まだまだ心の傷が癒されていないと感じました。しかし、私たち翔洋プラスは、「音楽で被災者を励ませたい」「音楽こそ心の支えになる」という思いで臨んでいましたので、出来る限りのことは精一杯取り組みました。毎日が緊張と不安の連続だった彼らの心の奥底まで、我々の音楽が少しでも響いたならば、この上ない幸せであります。

前日の小学校とは異なっており、一つしもない状況でした。「東北人はシャイですから」と訪問先の校長先生はおっしゃっていました。中学生にもなると震災当日の復興に向けて全員が頑張っていること、肉親を亡くしてしまったこと、大切なものが全て流されてしまったことなど、まだまだ心の傷が癒されていないと感じました。しかし、私たち翔洋プラスは、「音楽で被災者を励ませたい」「音楽こそ心の支えになる」という思いで臨んでいましたので、出来る限りのことは精一杯取り組みました。毎日が緊張と不安の連続だった彼らの心の奥底まで、我々の音楽が少しでも響いたならば、この上ない幸せであります。



していただきました。多くの方に支えられての演奏会だったことが理解できます。最後に訪れたのは、福島県二本松市にある仮設住宅でした。福島第一原子力発電所の近くにある浪江町の皆さんが避難されている運動場です。何の罪もない浪江町民が自宅を奪われ、新しい土地で生活を始めることを目の当たりにして、私もそして部員たちも全員が言葉を失いました。

「懸命に生きる」というのは、毎日大切に生きて無駄のない人生を送ることに相違ありません。この演奏旅行で吹奏楽部は、「人の心に届く気持ちのこもった演奏が自分たちに出来ることである」と理解することが出来ました。同じ日本人だからこそ助け合いの精神を持ち、痛みを分かち合うことが出来た。音楽で人の心をどこまで癒したり励ましたり出来るのかは未知数ですが、明らかに自らの責任をもってあらゆることに臨む姿勢が芽生えてきたことは間違いないと考えています。これからも多くの皆さまから支えられて、翔洋プラスは善行し続けることの出来る団体に成長したいと思っています。



「懸命に生きる」というのは、毎日大切に生きて無駄のない人生を送ることに相違ありません。この演奏旅行で吹奏楽部は、「人の心に届く気持ちのこもった演奏が自分たちに出来ることである」と理解することが出来ました。同じ日本人だからこそ助け合いの精神を持ち、痛みを分かち合うことが出来た。音楽で人の心をどこまで癒したり励ましたり出来るのかは未知数ですが、明らかに自らの責任をもってあらゆることに臨む姿勢が芽生えてきたことは間違いないと考えています。これからも多くの皆さまから支えられて、翔洋プラスは善行し続けることの出来る団体に成長したいと思っています。

## 進路状況

本校の進路指導は東海大学学園の一貫教育システムを活かし、東海大学への推薦入学80%以上を目指すとともに、国公立大学や私立他大学への進学、留学など、生徒一人ひとりの希望に合わせた進路指導とサポートを行なっています。

二〇一〇年度卒業生の進路状況は大学進学88.8%（東海大学70.9%）、就職(5.1%)、専門学校(6.0%)、その他(0.1%)でした。

### ◆東海大学 166名(70.9%)

付属推薦

- 〈東海大学〉 (内の数字は人数)
- 文学部(27)、観光学部(6)、政治経済学部(9)、法学部(12)、教養学部(9)、国際文化学部(2)、理学部(1)、情報理工学部(2)、情報通信学部(7)、工学部(18)、芸術工学部(2)、産業工学部(1)、海洋学部(24)、農学部(4)、体育学部(9)、健康科学部(7)
- 〈東海大学短期大学部(静岡)〉 (24)
- 〈ハワイ東海インターナショナルカレッジ〉 (2)

### ◆他大学 42名(17.9%)

(内の数字は人数)

- 東北大学、九州工業大学、防衛大学校、立命館大学、亜細亜大学、日本大学(2)、順天堂大学、桜

美林大学、東海大学(一般入試)、

- 神奈川大学、拓殖大学、日本体育大学、駒沢女子大学、文教大学、流通経済大学、清和大学、神奈川工科大学、金沢工業大学、常葉学園大学、浜松大学(3)、聖隷クリストファー大学、愛知学院大学(2)、愛知東邦大学、岐阜経済大学、京都精華大学、大阪保健医療大学、帝京科学大学、藍野大学、昭和音楽大学短期大学部、常葉学園短期大学(2)、静岡英和学院大学短期大学部、白鳳女子短期大学、首都経済貿易大学(留学)

### ◆専門学校 14名(6.0%)

(内の数字は人数)

- ちば愛犬動物学園(2)、早稲田美容専門学校、国際観光専門学校、静岡県理美容専門学校(3)、静岡服飾美容専門学校、静岡福祉医療専門学校、東海医療学園専門学校、京都建築大学校、辻調理師専門学校、大阪社会体育専門学校

### ◆就職 12名(5.1%)

- 佐川急便、日本通運、東海理化、株式会社エーツー、ジー・エム・コーポレーション、静岡部品、日亜銅業、ダブルアップエントテインメント、陸上自衛隊、海上自衛隊、自営業手伝い
- \*他大学・専門学校・就職の数及び割合は希望者も含む。

# 学校行事

四月  
中・高合同入学式



一年生宿泊訓練  
(富士山麓山の村)



PTA総会  
防災訓練

五月  
生徒総会



建学の地美化運動



交通安全教室



前期中間試験

六月

薬学講座  
演劇教室



二年生沖縄研修旅行  
(平和学習)



公開授業

七月  
運動部壮行会  
前期期末試験

八月  
学園オリンピック  
オープンキャンパス

九月  
防災訓練  
スポーツ大会



前期終業式

十月  
体育祭



建学祭  
(草薙陸上競技場)



弁論大会



六六六km踏破



十一月  
建学記念式典  
生徒会選挙  
後期中間試験

十二月  
特進ハワイ研修旅行  
バンドフェスティバル  
吹奏楽定期演奏会

一月  
三年卒業試験  
一・二年実力試験

二月  
入学試験  
後期期末試験

三月  
三年生を送る会



卒業式



同窓会クラブ表彰・  
入会式  
終了式・離任式



東海大学付属

翔洋高等学校同窓会

平成二十四年度総会のご案内

【日時】

平成二十四年六月十日(日)

受付 十時

総会 十一時

懇親会 十二時

【会場】

東海大学付属翔洋高等学校

受付 エントランスホール

総会 大会議室(本館一階)

懇親会 翔洋食堂(二号館一階)

【議事】

一・平成二十三年度事業報告

一・平成二十二年度・二十三年度  
会計決算報告

一・平成二十二年・二十三年度  
会計監査報告

一・平成二十二年・二十三年度  
クラブ表彰・クラス幹事

一・平成二十四年度事業計画(案)

一・平成二十四年度役員



# 恩師のたより

感謝とお願い

平島 正道



定年退職しあつと言う間に一年半が過ぎました。現在は学校のご好意で週五日非常勤講師としてラグビー部のお手伝いをさせて頂いています。私は昭和四十六年の春に高校ラグビー部指導を当時体育学部長で一高の学校長をされていた故山口久太先生から命を受け、二日間お邪魔したのがきっかけで翌年の昭和四十七年四月に東海大一高に奉職して以来、三十八年間の教員生活をスタートさせて頂きました。

教科は体育でクラス担任として卒業生を十二組送り出しました。担任として沢山の思い出がありますが二年生で実施した研修旅行ではこの間、世界遺産となった小笠原諸島をはじめ奄美、屋久島、種子島そして沖縄と普段では中々行くことがない土地でその地域の学校と交流ができました。

今でも忘れませんが十一月に奄美大島研修に行った時に私がリーダー格で船酔いの恐怖で盛り上がりがない生徒諸君に「奄美は亜熱帯の常夏の気候だから冬でもマリンスポーツができて楽しいぞ」と盛り上げていましたがいざ船が着岸し、先頭で船から出ようとしたら出迎えるの島民の皆さんはコート・ヤッケ・ジャンパー等の冬の服装、振り返るとデッキの出口でTシャツに短パンの夏のリゾートファッションで張り切っている生徒諸君、何処かに逃げ出したい心境になったことが懐かしく思い出されます。(間違いない泳げたから許して貰えますね)。

部活動での兄弟対決で県ラグビー界をリードし翔洋ラグビーに繋げた日々等の三十八年

間の教師生活は充実した楽しい思い出満載のものでした。皆さんには感謝の言葉しかありません。

色々な所で工業、一高の卒業生にお会いする度に「母校は無くなった、翔洋は関係ない」と言われてしまう。時の流れとは言え現実にはそうなので学校関係者として申し訳ないといか言えない。私も今でも校歌が歌える卒業した中学が廃校になりその寂しい感情はよく理解できるからです。でも校名が翔洋と変わりが無くなって皆さんが築いた歴史や伝統は事実として校歌と共に後輩は認識し傳承しています。第五号の会報で林芳久仁会長が「翔洋を全国一の学校に」と書かれていました。サッカーで日本一を実現した皆さんですから必ず遺れます。工業・一高翔洋の同窓会パワーで後輩の夢実現に力強いサポートを皆様にお世話になった感謝を込めてお願い致します。

今後も東海大学を愛する一人として微力ながら応援させて頂きます。



# 卒業生のたより

Y字校舎の想い出

東海大学付属工業高等学校  
第十一期 電気科卒  
高田 正吉

高田 正吉

務員さん)がいるのをみんな覗き見して混んでいたんですね。先生も見てたなあ〜もつとも、男子学生(千三百人)ばつつかの中に二十歳前後のお嬢様が三人いるだけでしたからもう大変でした。いろんな所に引つ張りダコでモテモテでしたね、差し詰めカゴの中の鳥状態みたいでした。

それから、入学して二ヶ月位経った頃でしたかね。スロープを降りて行ったら電気工事クラブの磯部君と佐藤君が声を掛けて来たんです。手すりがおかしいと言いつつ出ました。何の事か分からず触つたらズキンと来たんです。痛かゆいと言いつつ今までに感じた事がない感覚があつたんです。すぐ感電したと言いつつ思いがしました。今では電子マッサーで体感出来るのですが当時は感電する事なんかないから非常に驚きました。一、二度しびれる内に快感に感じました。その時から電気に目覚めたと言いつつ興味を持つようになりました。今、私が電気工事会社を経営しているのもあの時のチョイ悪達があつてくれた事が私の人生の始まりそのものだったかも知れません。

時代の流れと言いますか母校の東海大学工業高等学校から翔洋高等学校になった時も母校名が無くなり寂しいものがあつたのにまたY字校舎もお別れと成つてしまいました。大変寂しい思いがいたします。

古き物から新しい物に創造する事が文明の発展でもあるし、未来に託する事も必要だと思えます。決して校名、校舎が無くなつても私達の心の中に脈々と生き続けるでしよう。

Y字校舎よ、ありがとう、さようなら。



維持費協力者一覽

平成21年4月

平成23年11月

〔一高〕

第1期(昭和27年)

天野信明

佐藤昇

齊藤鉄夫

原川杉村和二郎

渡辺一雄

第2期(昭和28年)

渡辺勝司

第4期(昭和30年)

大澤泉

水上一夫

第7期(昭和33年)

勝山敦弘

望月政次

第8期(昭和34年)

栗山潔

福井達治

第9期(昭和35年)

佐野利夫

真田(杉山)正勝

第10期(昭和36年)

山梨公良

稲童丸孝

第11期(昭和37年)

高田昌矩

松本純一

第12期(昭和38年)

山本洋史

羽切和彦

林芳久仁

第14期(昭和40年)

鈴木雅人

中村康雅

第15期(昭和41年)

安部亥太郎

今西恒雄

谷津(近藤)京子

萩田忠則

羽根田五佐男

伏見順策

山崎健雄

第26期(昭和52年)

西川泰彦

第28期(昭和54年)

八木一臣

第31期(昭和57年)

鈴木(上斗米)由美

第38期(平成元年)

深澤恭徳

第39期(平成2年)

吉武仁

第41期(平成4年)

小林正枝

第43期(平成6年)

深澤裕氣子

第44期(平成8年)

柴田(中村)真也

第45期(平成9年)

小杉幸弘

第46期(平成9年)

入月俊光

第48期(平成11年)

鈴木順子

堀場至

〔二高〕

第1期(昭和37年)

坪井邦俊

寺田政敏

畑啓吾

本橋勝朗

第2期(昭和38年)

折原功隆

長谷川(倉田)稔

小山桂三

第3期(昭和39年)

福井孝典

望月照巨

第4期(昭和40年)

杉山(望月)広芳

第5期(昭和41年)

藤浪弘行

第6期(昭和42年)

池谷良久

第11期(昭和47年)

久保田正男

第18期(昭和54年)

山田芳弘

第20期(昭和56年)

山田芳己

第27期(昭和63年)

忍賀仁

第29期(昭和65年)

小野隆一

第31期(昭和67年)

宮本威信

〔翔洋高〕

第1期(平成12年)

石垣亨

鈴木啓太

服部昌直

山内英彰

山梨裕子

山村真哉

吉川知宏

第2期(平成13年)

瀧美利恵

小山田晃浩

鏡島一道

木部昭徳

熊山昭徳

高橋一矩

戸塚佳孝

富田孝

土海考司

春田尚紀

奥墨(堀)修三

第11期(昭和47年)

山内将充

山澤俊宏

第3期(平成14年)

青島佑樹

岩瀬弘明

高橋美帆

萩原裕士

増田愛子

望月康宏

山梨瑛子

第4期(平成15年)

岩瀬陽平

黒田洋央

正田圭佑

平野恒生

宮本貴圭

山本圭

2010年度 東海大学付属翔洋高等学校同窓会 決算書

2011年3月31日

収入の部

科目	決算額	備考
会費	1,830,040	3年生入会金1,398,000円 (233名×6,000円) 会費432,040円
雑収入	87,036	園遊会売上金、港みこしまつり収益、普通預金利息等
前年度繰越金	10,731,506	
合計	12,648,582	

支出の部

科目	決算額	備考
事務費	8,925	文具代、アルバム代
会議費	152,370	同窓会総会、役員会等
交通費	0	
通信費	447,145	切手・はがき代、会報発送費
印刷費	392,443	会報印刷費
補助費	0	
広報費	20,000	連合同窓会広報誌費
事業費	831,117	園遊会経費、建学祭経費、港みこしまつり経費、卒業記念品、Y字校舎お別れ会経費等
慶弔費	16,118	弔電、生花等
諸会費	300,000	連合同窓会年会費・参加費、園遊会分担金、新年祝賀会分担金・参加費
寄付金	50,000	東日本大震災被災者救援金
雑費	2,640	振込手数料等
次年度繰越金	10,427,824	
合計	12,648,582	

会計帳簿、証憑等を精査した結果、正確かつ妥当であると認めます。

2011年6月30日

会計監査 志澤 繁雄 (印)  
 会計監査 齋田 勝之 (印)

山本 紗矢香  
 森月 友里香  
 望月 康一  
 村下 博樹  
 宮田 康祐  
 三好 航平  
 三浦 恵美子  
 松本 美子

# 同窓会報告

## 第三十六回

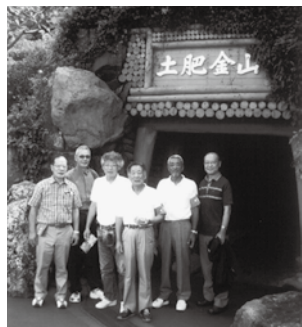
### 連合同窓会総会報告

同窓会事務局 山田 芳平

第三十六回東海大学高等学校連合同窓会総会が平成二十三年九月十七日(土)～十八日(日)の二日間にわたって行われました。また、前日には有志十八名によるゴルフコンペもリバー富士カントリークラブで開催されました。七十四名が参加した総会は伊豆の下田セントラルホテルで行われました。

第一日目の九月十七日(土)は、午前十時にJR三島駅に集合し、清水からのバスと合流した後、三島駅に向かい出発しました。

土肥金山で昼食を取った後、当時の坑夫らの人形が再現されている坑内や土肥金山に関する資料や鉱石などが展示され、世界一の巨大金塊もある資料館を見学しました。その後、堂ヶ島に寄り凝灰岩が海水で浸食され、断崖となり海にそそりたっている堂ヶ島海岸も見学しました。また、松崎では貴重な長八の代表作品約六十点を集め展示している長八美術館も見学しました。



十六時過ぎに下田セントラルホテルに到着し受付を済ませた後、十六時四十五分に会長会議が始まりました。会議は戸塚雅夫連合同窓会会長の挨拶から始まり、昨年度の事業・会計報告、今年度の事業計画の報告がありました。十八時から総会が高橋信由翔洋高校校長、千葉彰吾翔洋高校副校長を来賓に迎えて始まりました。建学の歌を全員で歌った後、戸塚雅夫会長、高橋信由校長の挨拶に続き、戸塚会長を議長に選出し、事業・会計・会計

監査・事業計画等の議事が審議され、無事に終了しました。また、今回の総会開催校は第二高等学校(熊本)と報告がありました。

その後の懇親会は山海の旬の地場素材を活かした和会席膳の料理に舌つつみし、美味しいお酒を呑みかわしながら、和気あいあい会員同志の親交を深めました。盛り上がった時間はあつという間に過ぎ懇親会は終了し、二次会へと流れていきました。

翌日の下田観光では、日米和親条約が締結されたことで知られ、開港時の資料や総領事ハリスに仕え、非業の死を遂げたお吉ゆかりの品などを展示している「了仙寺」と、お吉の菩提寺であり、勝海舟が土佐藩主山内容堂

「新しい校風、どうぞよろしく」  
翔洋の皆様、どうぞよろしく



東海大学付属小学校 東海大学付属幼稚園 校園長 永井 成昌

本校園は、2012(平成24)年4月に、三保の地から折戸の地・東海大学清水キャンパス内へ新築・移転にむけて、工事が着々と進んでおり、来年2月末には完成の予定となっております。

三保の地では、東海大学付属幼稚園は54年間、東海大学付属小学校は45年間にわたって、地域の皆様にはお世話になりました。新校園舎は、幼稚園全保育室に床暖房と空調を完備、小学校全教室で空調と無線LAN完備等、最新の建築により、最近重要視されている安全性と機能性の高い教育環境が実現されます。

日頃から、幼稚園・小学校ともに細やかな教育指導を展開し保護者のご理解を頂いているところですが、新校園舎になるというだけでなく、教育改革にも取り組んでおります。幼稚園は、「未就園児あそびの会」というのを水曜日に実施しておりますが、さらに、「あそびの会プレミアム」ということで、入園する

に竜馬の脱藩赦免の願いを出した場所として知られる「玉佛寺」を見学しました。

その後、伊豆急下田駅前のひもの店でお土産を購入し、下田を後にしました。

昼食を伊豆天城で済ました後、「日本の滝



3月まで、満3歳児を午前中から金まで無料でお預かりする制度をこの夏から開始しております。小学校は、「一人ひとりに確かな学力を」をモットーに、2012年度から1日6時間を7時間制にし、ゆとりをもった学習の定着と、より創造性・発展性のある内容を盛り込みます。また、保護者の負担軽減ということで、月から金まで毎日給食を実施します。

さて、付属幼稚園付属小学校の移転により、清水キャンパスには幼稚園から大学・大学院まで、文字通り一貫教育の場が誕生します。これまでも付属翔洋高校・中等部や海洋学部

の先生方のご支援を頂いてきましたが、今後は移動によるタイムロスがなくなるため、より活発な交流・連携が実現できるでしょう。また、園児・児童・生徒・学生という異年齢間の交流が進むことで、大きな教育効果が生まれるのではないのでしょうか。今後とも、皆様のご理解とご協力をお願いいたします。



100選にもその名を列ねている「浄蓮の滝」を見学し、十四時にJR三島駅で解散しました。今回の第三十六回東海大学高等学校連合同窓会総会を無事終了できたことは、企画・運営会議や会場等の下見に参加された役員や当日の運営を手伝ってくれたスタッフの皆さんの協力のおかげです。特にゴルフの運営に当たってくれた副会長の杉山様や丸勇交通(株)の志村様には大変お世話になりました。関係された皆様にお礼と感謝を申し上げます。



第36回 東海大学高等学校連合同窓会総会 平成23年9月17日 於 下田セントラルホテル

## 編集後記

同窓生のみならずには、大変に想い出深いY字校舎が解体され、現在は、来年4月の小学校・幼稚園の開校に向けて順調に工事が進んでおります。平成五、六年生まれの生徒たちも、インターハイや、東日本大震災の被災地への慰問演奏等々、元気に活躍しておりますが、同窓会の役員さん達の高齢化が年々進み、翔洋も年々重くなつてまいりました。是非とも、同窓会に若い力、風を吹き込んでいただきたいと思います。今後とも、翔洋高校の発展のため、同窓会も応援させていただきますと思います。ご協力、よろしくお願ひ申し上げます。

同窓会役員一同